



学校法人志賀学園
久之浜こども園
平成 29 年 11 月 30 日

朝夕の空気がめっきり冷たくなってきました。でも、こども園の園庭は日当たりがよく、子ども達の寒さに負けない元気な声が響いています。

今月は「子どもの育ち」について考えてみたいと思います。

子どもは、大人に守られながらその中で、将来必要な「力」を身につけて行きます。

それまで出来なかったことが出来るようになることが力がついたということです。また、出来ないことを、今もっている力で出来るようにして行くことが育つということです。

子どもが何かをやって失敗した時、手持ちの力をしっかり使うような体験が出来ているでしょうか？親はその過程をじっと見守ることが出来ていますか？

子どもたちは、守られっ放しになっていませんか？

子どもが自分の力が発揮されると感じる時はどんな時なのでしょう？

作品展では、自分の作りたい物のイメージをふくらませながら、考えたり、工夫したり、時には失敗したりする体験をたくさんしました。幼児期には、このような小さな失敗体験をすることも必要なのではないのでしょうか。

製作活動を通し、発想の豊かさ、考える力、技巧的な要素などの面で、失敗したりうまく出来たりしながらそれぞれ力がつく経験が出来たと思っています。

今度はいよいよ、生活発表会です。年長組は「ピーターパン」と「アラジン」の言語劇を行います。絵本の世界からお話しの内容を知り、あらすじを理解し、一人ひとりが台詞を覚え、表現するところまで来ました。人前で発表することが得意な子もいれば、恥ずかしがり屋で大きな声が出せない子もいます。しかし、出来ないことが少し出来るようになってくると、自信がつき更に上手になって行く過程を見ていると、確実に力がついてきていることと共にそこに育ちを感じます。そんな時、周囲の者が一緒に喜んであげることが、子どもの力に繋がって行くと思います。誉めて育てるのも良いのですがそれだけではいけません。誉めて育つのは小さいうちだけ。子どもにとっては誉めてくれるより一緒に喜んでくれることの方が大切で、自尊感情が育ち新たな世界を学ぶことに繋がっていくのです。子どもが何か出来るようになったら、大いに喜んであげて欲しいと思います。

一年でいちばん昼が短く、夜が長い日が冬至です。

冬至の日にはカボチャを食べたり柚子湯に入ったりすると、風邪をひきにくくなると言われています。

寒くなるこれからの時期、体を温めて風邪に負けない強い体をつくりましょう。

